

日整災害対策室 活動報告

1) 日本 DMAT 訪問

令和 5 年 1 月 18 日、日本柔道整復師会災害対策室メンバー（豊嶋良一・塩見猛・隈本圭吾・森倫範）は、災害現場での指揮命令系統のチームリーダーである厚生労働省 DMAT 事務局次長の近藤久禎先生と面談した。

近藤先生からは、日整災害対策室として、塩見副室長を中心に、柔道整復師が災害現場でどのように活動できるかのシステム作りを進めることが望ましいのではないかとのアドバイスを頂いた。

また、今後の協力体制を考え、令和 5 年 3 月に開催される日本災害医学会学術大会¹で行われる会議に塩見・森が参集するように求められた。新鮮な怪我等に対して、災害現場で協力していくことが望まれていることが話された。

さらに、日整における災害医療に対する組織化を早急に行うことが求められ、南海トラフは 30 万人以上の死者が生じると概算されており、その対応に医師だけでは不十分であるため、是非協力して欲しいとの申し出があった。



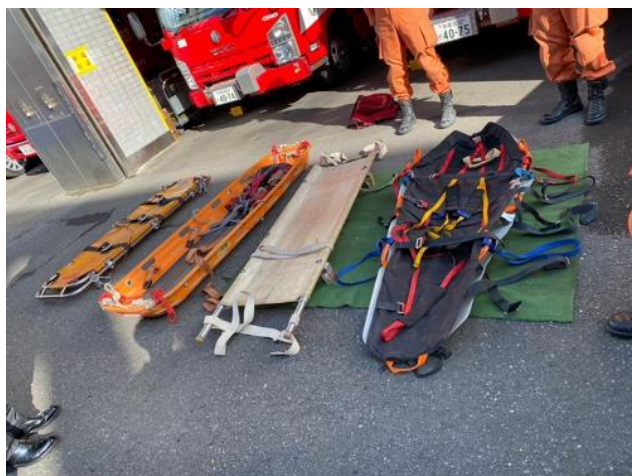
2) 東京消防庁 第 8 方面消防救助機動部隊 (Hyper Rescue) 訪問

同日、東京消防庁 第 8 方面消防救助機動部隊 (Hyper Rescue) 本部（立川市和泉町 1156-1）の現場視察を行った。

一般財団法人 日本国際協力センターの長沢氏と第 8 方面機動部隊指揮隊の皆川隊長から特に医療に関わる資機材・装備品についての紹介と意見交換が行われた。

¹ 日本災害医学会学術大会・・・阪神淡路大震災の翌年発足。会員数 5000 名以上。医師等をはじめとする医療関係者をはじめ、消防、自衛隊などの防災機関、行政職員、災害に関係する医療分野以外の者など多職種、他分野で構成。令和 5 年 3 月第 28 回大会では、「災害保健医療の過去・現在・そして未来 “人材育成”」というテーマで東日本大震災被災地 岩手県にて開催される。
大会 URL <https://site2.convention.co.jp/28jadm/>

第8方面機動部隊は国内の特別災害に対応できる資機材や車両が充実しており、中には2 km 先に放水できるポンプ車等があった。災害現場から救助した負傷者をどのように救助し、医療に引き継ぐために柔道整復師に何ができるかの意見交換が行われた。



災害現場等用途に応じたタンカを4種類紹介いただいた



東京消防庁
第八消防方面本部
消防救助機動部隊

左から、森、長沢氏、豊嶋、皆川隊長、塩見、隈本